

仲間の声が要求実現の「エンジン」

京都北都従組第23回定期大会に32名

京都北都信金従業員組合は、12月13日に第23回定期大会を開催し、役員・代議員・オブザーバー・来賓計44名（うち委任状12名）が参加しました。



橋本副委員長は、「今年は例年以上に組合として多くの問題に取り組み、臨給、ベースアップ、雇止め、労働協約違反問題等で交渉を重ねた。アンケート結果による組合員の声も多く届けることができた。組合員の意見を集めて交

渉することが、要求実現のエンジンになるので遠慮なく声をあげてほしい」と挨拶しました。

続いて来賓の金融労連・伴中央執行委員、近畿地協・岡野議長、京都北都信金分会・後藤委員長から連帯のあいさつが行われました。

今大会では、白波瀬委員長からバトンタッチされた橋本委員長以下、新執行部体制が発足しました。

大会後に開かれた恒例の懇親会では本音トークで、組合員間の交流を深めました。

大会で選出された新三役は、次の通りです。

執行委員長 橋本 克弘
執行副委員長 糸井 孝志・吉良 元宏
// 石束 大輔・野村 大樹
書記長 坪倉 大輔

従組と共同で要求前進

金融ユニオン京都北都分会第6回定期大会

11月11日に京丹後市峰山町の谷川ホールで『金融ユニオン近畿支部京都北都信金分会第6回定期大会』が開催され、15名が出席しました。冒頭、後藤委員長は、地域労組と一体の活動の大切さや労基署、法務局、京都労働局などの交渉により情勢を切り開いてきたことなどを報告しました。今大会には、金融ユニオン浦野中執、京都北都従組の野村副委員長と坪倉書記長、京都総評柳生事務局長、京都労働相談センター西浦相談員、丹労連尾崎事務局長を来賓に迎え、国公労連からはお祝いのメッセージが届けられるなどかつてなく連帯の輪を広げる大会となりました。

大会に先立ち、谷川組合員のアコーディオン伴奏により『ああ人生に涙あり』（水戸黄門の曲）、『青い空は』の歌声で、参加した仲間の連帯と団結に包まれ、一気に盛り上がりました。

今大会では、福井書記長が全信労時代の闘いの歴史を、昭和30年代の丹後の「織物闘争」な



どの中で丹後中央や福知山信金で先駆的に組合を結成し全信労加盟を果たし、後に宮津、舞鶴、綾部信金の組合の加盟により京都北部での労使の力関係を不動のものに築いてきたこと。特に福知山信金争議団の18年に及ぶ不当解雇撤回闘争の勝利や近年の二回に渡る合併に伴う、経営側からの分裂攻撃にも屈せず、統一組合を結成するなど現在の京都北都信金従組は、65年に及ぶ苦難の闘いのもとで守られてきた経過をふまえて多くの資料をもとに熱く語りました。

大会討論では、昨年3月、金庫が組合員のK君に対し突然の「雇止め」を通告した中で、従組が当分会との合同会議を精力的に行い、申入書の提出、委任団交（従組・地協・分会）の実現等に取り組み、①労働協約（組合三役の内1名の本店勤務）違反状態の解消 ②K君（障がい者雇用）の雇

い止め撤回・無期雇用の実現 ③障がい者に対する「草むしり業務」の廃止などの貴重な成果を勝ち取ったこと、この闘いを通じて引き続き、従組と共同して要求の前進、職場の民主化に奮闘することが強調されました。

発言では、障がい者雇用に対する『合理的配慮』を欠く「りそな銀行」の職場の安全管理や、人事考課平均以上の労働者だけを65歳以降の雇用対象者とする大阪シティ信金などの金融ユニオン在阪ブロックの取り組みや、郵便局など地域の金融機関が不便になったこと、舞鶴での模擬原子爆弾や第3火薬廠など知られざる戦争遺跡をもとにした平和の取り組みなどが報告されました。

また、パワハラと本人の健康状態を無視した一方的なバイク営業の強要などで退職を余儀なくされたY君(2024年11月に分会加入)は、通院当時の辛さ、新入職員時代のパワハラ被害の悔しさを訴えました。

選出された分会新三役は次の通りです。

●委員長 後藤光明、●副委員長 荒砂浩二
●副委員長 阿部正巳、●書記長 福井悦雄

★ ★ ★

社会的「弱者」対応に温度差

金融ユニオン近畿支部第17回定期大会

12月20日、近畿地協大阪事務所、金融ユニオン近畿支部の第17回リモート併用の定期大会が開催され、役員・代議員・オブザーバー9名が参加しました。近畿支部・辻委員長は、あいさつで、ワークライフバランスを捨て「働いて働いて」を繰り返す高市新首相の労働時間の規制緩和を厚労相に指示するなど、これまで長年かかって実現してきた労働時間短縮に背を向けるやり方を厳しく批判したうえで「物価上昇を上回る賃上げを実現するため、団結権・団体交渉権・団体行動権を駆使して頑張ろう」と訴えました。

(大阪事務所からリモート参加)

三菱UFJ銀行では、金融ユニオン愛知ブロックの仲間が地域の労働者や視覚障がい者団体と共同で、ATMコーナーへの誘導路の設置に向け、金融庁が「努力義務」にして促進を図ったりするなどの前進が報告されました。一方、りそな銀行では「障がい者雇用」として採用された労働者が6年間で6件もの労災事案に遭遇し、今では通勤さえ困難な状況にまで追い込まれるなど、社会的弱者への対応に大きな「温度差」が生まれています。

大阪シティ信金・小中幸子組合員の65歳以降の雇用確保問題では、この間の交渉で、雇用確保に向けた

「努力」の跡が感じられない経営側とは対照的に、金融ユニオンが「こども食堂へのボランティア派遣」

「食材提供などフードロス対策」等々の地域社会貢献活動のための就労の場の具体化など、高齢者の雇用確保に向けた取り組みを求めていることも報告されました。

討論終了後、大会では全議案が採択され、辻支部委員長はじめ、全役員の再任が承認されました。

経営と日本経済ゆがめる「自社株買い」

株価を都合よく操作できる弊害などから、日本では禁止されていた「自社株買い」が、小泉純一郎首相(当時)と竹中平蔵経済財政政策担当相(当時)の「構造改革」のもと、2001年の商法改定以降、全面的な自社株買いの解禁が進められてきました。

自社株買いは、内部留保などの自己資金を使って行われるため、その分、労働者の賃金や設備投資、下請け単価改善など国内経済の活性化に使えるはずだった原資が減り、長引く経済停滞を招いています。

日本共産党の大門実紀史議員は参院財政金融委員会で「自社株買いによって人材や設備投資にお金が回らず企業が持っている価値や将来性を株主が奪い取っている」と批判し、経営者も本業の長期的な発展より自社株買いに走り、「経営のゆがみ」が生じていると指摘しています。株の配当と違って、自社株買いは株式を売却するまではその利益に課税されません。アメリカやフランスなどでは既に自社株買いへの課税に踏み切っています。

働かず逃げる愚行

国を舵取る人は、隣国と敵対し国益を失い、一方の狂気の権力者の懐に入れていただいたと満面で喜ぶ勘違い。苦しい人たちに寄り添わず今やるべきことをやらず。働かず国会の議論から逃げる。なにやら触れられると困ることをごまかす愚行。

(大阪)府の舵取る人は、こぼれるやましいことを隠しフタをし。もうやりませぬと万人の前で言うたことを、また問うという。多大な無駄遣いをして。

ともに、我がの保身しか頭にない人たち。

こんなことをしている場合ではないのに、こんなことに付き合わされてる不幸。

嘆いてないで人を投じる側は惑わされず騙されず、真の目で見極めないと。そのなんとなくの雰囲気にもまれた一票が、世の中のこれから生きる人の迷惑にならないようにと、我がの一票に思う。

(大阪在住 絵本作家・長谷川義史さん)

お知らせ

3月7日(土)近畿地協学習交流会 in
舞鶴におこしやす

